

令和6年度茅ヶ崎市地域ケア推進会議 報告書
(グループワーク記録・抜粋)

議題：テーマ「孤立化している高齢者を地域でどう支援していくか」

グループワーク

【1 グループ】(医師会・民児協・まちぢから・地域包括)

○現状の課題・既に取り組んでいること

- ・コロナ禍を経て地域の動きが少なくなっていると感じる。
- ・地域住民が集まりやすい場を提供するよう工夫したり、相談先として包括を紹介している。
- ・医師として、しばらく受診がない方には電話で状況確認をしている。
- ・住み慣れた家で人生を終えたいと思っている人は多いが、親族が不在であったり、いたとしても協力が難しかったりする。
- ・預金の引き出し、身元引受人の依頼など、民生委員の立場の枠を超えた対応を求められることがある。

○今後取り組みたいこと

- ・かかりつけ医を持てるようなキャンペーンをしたらよいのではないか。
- ・先生から包括を案内をしていただければ、動くことができる。
- ・避難行動要支援者名簿を各機関で活用できるようにしたい。
- ・コンビニエンスストア等民間企業との連携もできるとよい。
- ・2040年問題に向けてACPもPRしていけるとよいのではないか。

【2 グループ】(薬剤師会・介護サービス事業者連絡協議会・市社協・地域包括)

○現状の課題・既に取り組んでいること

- ・地域の方に高齢者向けサロンを紹介している。
- ・マンションに住んでいる方は孤立しているかどうか分かりにくい。
- ・ケアマネは介護認定が出力からの対応が多いため、初期からの対応はなかなかないが、関わった際には、デイサービス等の介護保険サービスだけでなく、地域のサロンやボラセン、まごころ収集の活用も提案している。
- ・障がいサービスの活用をすることもある。
- ・社協ではサロン活動に補助金を出している。サロン支援をしても、一人で新たにサロンに参加するのはハードルが高いと感じている。
- ・リタイア後に地域で新たなつながりを作ることは難しい。
- ・薬局は世帯状況の把握が難しいが、継続して関わっていると見えてくる場合があるため、その際には包括を紹介している。

○今後取り組みたいこと

- ・新しい人が参加できるサロンのテーマ設定をする。
- ・地域の資源を可視化したリストがあるとよい。
- ・ICT(LINE)などを活用した安否確認ができるとうい。
- ・宅配業者等がキャッチした情報を共有できるような連携ができるとよい。

【3グループ】(歯科医師会・介護サービス事業者連絡協議会・地区社協・地域包括・保健所)

○現状の課題・既に取り組んでいること

- ・本人は困り感がないが、近隣住民が困っている事例について地域ケア会議を開催するようにしている。
- ・自治会未加入者も増加していることから、ご近所同士の助け合いが減少しているのではないか。
- ・デイサービス事業者としては、送り出しの準備を兼ねて安否確認や本人のご様子確認になっていると感じている。
- ・歯科医として介護認定審査会に出席している。
- ・ゴミの個別収集が始まる地域もあるが、ゴミ出しの際に顔を合わせる等自然と集いの場となっていたものがなくなってしまうという懸念がある。
- ・ボランティアセンターでは、一人暮らしだと社会資源を知る機会が少なかったり声を掛けにくい現状があると捉え、ボランティアから地域住民へ声かけをしている。またボランティアポイントを採用して担い手の確保を試みている地区もある。
- ・若年性認知症の方で家族はいるが、地域やコミュニティから孤立してしまう場合もある。
- ・災害現場では疾患のある方の孤立化も課題になっている。

○今後取り組みたいこと

- ・地域との顔の見える関係性づくり。
- ・咀嚼によって脳血流量が増えることが分かっており、孤立化している人の口腔内の状況や嗜好品を調べてみたら面白そう。
- ・若い世代に地域の担い手を担ってもらえるような周知方法の工夫が必要。
- ・デイサービスの利用者は女性が多いが、麻雀は男性の参加も多いことから、男性を呼び込める取組として居酒屋を借りて集いの場にできないか。血圧測定や嚥下・咀嚼機能のチェックもできる。
- ・避難行動要支援者名簿の活用